

令和6年度 第2回博物館協議会 (抄録)

日 時	令和6年10月31日(木) 午後1時30分～2時30分	
場 所	安城市歴史博物館2階講座室	
出席委員	高山 忠士	会長
	加藤りせ子	副会長
	荒井 信貴	
	市川とし子	
	平岩 政志	
欠席委員	松永 博司	
事 務 局	朝岡 一秀	文化振興課長
	小田 健二	安城市歴史博物館館長
	野上真由美	学芸係長
	杉山 和良	主査
	後藤 麻里絵	主査
	千田 佑香	主事
	本部はる香	主事補
	井上宗一郎	指定管理者
		安祥文化のさと地域運営共同体総括責任者
	小野 麻紀	指定管理者
		安祥文化のさと地域運営共同体副総括責任者

次 第

1 あいさつ

2 協議事項

- (1) 令和6年度開催済事業報告
- (2) 令和6年度下半期事業計画(案)
- (3) 令和7年度事業計画(案)

3 その他

- (1) 今後の日程
- (2) 観覧

協議事項

(1) 令和6年度開催済事業報告

事務局	【令和6年度開催済事業報告について説明】
指定管理者	【令和6年度開催済事業報告について説明】
会長	事務局の説明が終わりました。質問等がございましたらお願いします。
委員	「ごろごろまるまるネコづくし」展は非常に良かった。ただし学芸員は作品を多く展示したいだろうが、夏休み企画で子どもたちをターゲットにしているなら、観覧者側に立って展示方法を考えてもらいたい。「はたらく道具たち」展も展覧会の構想段階でターゲットをはっきりさせた方が良い。ターゲットをどこに置くかで、展示方法が大きく変わってくる。見学学習で来る小学生たちは民具についてほとんど何も分からないので、学校教育に重点を置くならもう少し分かり易い説明が必要だったし、楽しめるコーナーをどう増やしていくのか考えることが必要。子どもたちにとっては、参加型や触ることのできる展示などを考えていかなければいけない。学芸員も展示したら終わりではなく、展示室の中で子どもたちがどう動いているのかを見て、どのような展示レイアウトが良いのかを考えていくことが必要。毎日展示室の状況を見ることをしていただきたい。
委員	見学学習時にちょうど企画展・特別展を開催している学校は見学ができるが、そうでない学校は常設展や埋蔵文化財センターでの内容を充実させて対応しているのか。 また、企画展「はたらく道具たち」は、期間中に見学学習に来られた5校はしっかり体験することができたと思う。バスの手配の問題もあったが、子どもたちに見せたい企画の時に見学できるようにしてもらいたい。子どもたちの感想にも興味があるので、ちょっと示していただきたい。子どもたちにどのように捉えられたのかを、今後の展示に生かしていただきたい。
委員	特別展「ごろごろまるまるネコづくし」は3回ほど観覧したが、女性と子どもが多かった。私からは2点申し上げたい。4月27日の中日新聞朝刊に、全国の博物館・美術館の収蔵庫が一杯で、特に民具は寄付が多いので軒下に置いてシートが被せてあるような状

	況であり、博物館・美術館は行政としては予算を付け難いので収蔵庫の増設や新築ができないという趣旨の記事があった。そこで当館の状況を教えていただきたい。
事務局	見学学習の質問に対しては、特別展・企画展のない時期は、市民ギャラリーの展示へ案内し何らかの展示は見てもらえるようにしている。 収蔵庫の質問に対しては、当館も非常に悩ましい問題として認識している。民具については当館の収蔵庫だけではなく、市内の他の場所で保管しているものもある。受入れの制限や博物館のリニューアルの際に収蔵庫の増床についても検討しなければならない状況である。
委員	民具は本当に沢山ある。展示の時に使えるものは使っていくのがよいのではないかと。保存して長期保存を図るものと、子どもたちに見せて活用していくものとのランク分けをするべき。安城の今昔のシリーズでは、子どもたちに民具の体験をさせることが大事なので、資料の吟味をしてもらいたい。資料の寄贈受入時に、民具はたくさんあるので子どもたちに活用してもらいたいかもしれないし、その際に壊れてしまったらこちらで処分させていただきますと話をしておいて寄贈を受け入れる方がよい。
事務局	小中学校に貸し出しすることができる体験用民具を収蔵庫外に用意している。コロナ前までは多くの小中学校への貸し出し実績があったが、学習指導要領が変わったこともあり、近年貸し出しは少ない。体験用民具の扱いについては、指定管理者が展示の時にエントランスで民具体験をしたこともあるので、今後は活用について検討したい。
委員	学校の先生方が、体験用民具についてご存じないのではないかと。現場の先生方に余裕がなく、なかなか活用してもらえない。学校に積極的に働きかける機会があるとよい。 数年前から感じているが、夏休みの自由研究提出が自由になったにも拘わらず、自由研究相談会もあり歴史のひろば展は非常にレベルが高いので、積極的に学校の先生方にもっとPRして知ってもらい、裾野を広げてほしい。

委員	常設展だけ見に来る学校には、民具を紹介するメニューを提示してはどうか。自分が説明するのは難しいが、説明してもらえたら活用したいという先生もいる。学校に使ってもらえるように、民具を使用するメニューを紹介して欲しい。
委員	小中学校の先生と打ち合わせで話していると、30代から40代の先生は農業の形態を全く知らないと感じる。先生方は、民具を触ったことがない、稲刈りもやったことがないので子どもにも教えられるのではないのか。校区の神社仏閣も忙しくて行ったことがないとのこと。先生方が忙しいのであれば、学校の近くの田の稲刈りや脱穀を体験するなど、老人クラブやボランティアが教えることもできる。 2点目は、安祥文化のさとまつりの歴史のひろば展は、観光ガイドがマニュアルにしたいぐらい作品のレベルが高い。安城の子どもたちは素晴らしい才能があると思う。教育委員会の尽力に感謝したい。
委員	歴史賞、歴史大賞の作品だけでも残して、展示するとか巡回するとか、公民館で巡回しても良いと思う。
委員	歴史のひろば展をやり始めた時から見ているが、子どもたちの成果を学校だけに帰結させない、廊下や教室の後ろに貼って終わりではなく、ギャラリーの中で一般の方たちに見ていただけるのは素晴らしいこと。安城がお手本でどこの博物館もやっていないので、大事にしながら今後どう続けていくという視点で検証していただきたい。安城の子どもたちの歴史に対する力は凄いと実感している。他ではやっていないので、そのように認識してほしい。
委員	安城市は昔から、かがくのひろば展を毎年へきしんギャラクシープラザでやっている。歴史のひろば展も一緒に開催するように提案することはできるのか。
事務局	歴史のひろば展は私自身も素晴らしいと感じているので、公民館で巡回展なども一度検討してみたい。
委員	会場の問題もあるので、全科目一緒に開催するのはなかなか難しいところがある。子どもフェスティバルみたいな形で、第1会場、第2会場のように会場を分けて時期を揃えて開催することはできると思う。地域に根差した情報を子どもたちがおさえてくれている

	ので、それをどの様に安城市全体の歴史にのせていくのかの視点は、学芸員が考えないといけない。学芸員は、歴史のひろば展はきちんと見るようにして欲しい。
--	---

(2) 令和6年度下半期事業計画案

事務局	【令和6年度下半期事業計画（案）について説明】
指定管理者	【令和6年度下半期事業計画（案）について説明】
会長	事務局の説明が終わりました。質問等がございましたらお願いします。
委員	福よせ雛は評判がとても良く、SNSなどでどんどん拡散してもらいたい。製作過程も含めて紹介することはできないか。
指定管理者	製作する過程にもボランティアに参加していただき、紹介できるようにしていきたい。

(3) 令和7年度事業計画案

事務局	【令和7年度事業計画（案）について説明】
委員	三河地震について、三ツ川地区の安正寺の境内に、三河地震追憶の碑がある。今60代～70代の方でも、城ヶ入地区や根崎地区以外の方は三河地震を知らないし、伊勢湾台風はもっと知らない。この2～30年に愛知県外から安城に来た方は知らない。私は伊勢湾台風の時、高台にあった自宅から鹿乗川から矢作川の間、木戸町から河野まで池になっているのを見た。藤井町内の方からはいろいろと三河地震の話を聞いたが、藤井町は死者が多くて矢作川の堤防で遺体を燃やした、夜だと米軍に攻撃されるので昼に燃やした、藁と材木では燃えない場合は残酷だけれども手や胴体を切って燃やしたとの話も聞いた。当時の生き証人はもういないので、展示物は写真とか統計とか、地震の展示というと良くあるのが倒れた建物の写真で、地震の怖さを伝えるのか、地震があったことを伝えるのか、死者が多かったことか、特別展「地震と災難」はどちらをメインにした展示にするのか。
事務局	今回の展示は近世からの地震を取り上げる。全国を見ていくと、安政の東南海地震の瓦版や錦絵が描かれたり、当時の江戸で起こっ

	たことが、この地域の古文書に残っていたりする。安政の地震では津波が起きており、和歌山県から借用する資料には、津波がここまで来たから今後は注意するように壁板に書いたものなどがある。今回は被害についてではなく、その後の災害復興をしていくかという点に焦点を当てて展示していきたい。
委員	三河地震は第二次世界大戦末期でほとんど情報が外に出なかったというところで、平成18年度の企画展「三河地震」が全国的にも高く評価されており、知られざる三河地震に真正面から取り組んだ画期的な展示とされた。三河地震であれを超える展示はできないので、幅を広げてという話になると思う。名古屋大学に減災館があるので、地震のメカニズムとか、被害の起こり方みたいに、少し子ども達に興味を持ってもらえるように、展示品を借りてくることができれば面白いと思う。
委員	三河地震について調べている町内会もある。西尾市の方が大変だったので、安城市の土建業の人たちが全員西尾市の平坂町へ行って土嚢積みをやったなど、町内会によってはいろいろと聞き取った情報が残っているので、地域の人が残したものもあったら良いと思う。弘化4年(1847)の善光寺地震については、古井の市川治郎兵衛の日記が残っている。伽藍が壊れて僧侶が亡くなったなどの地震についての記述が、6日遅れで記述されている資料がある。
委員	最終的には深溝断層しか残らないとなりかねないので、何年かごとに取り上げていただければ良いと思う。あと、妖怪展は借用先から展示資料はどれぐらい借りられるのか。
事務局	100点程度借りる予定をしている。
委員	令和4年度の特別展「怖〜い浮世絵」よりもかなりバリエーションがあることが見せられそうか。
事務局	和装本とか、現代的なものも持っているので、浮世絵だけでなく、絵巻や作られたミイラなど様々なバリエーションの資料を借用する予定。
委員	そういったものを入れていくと目先が変わってくるので。前の展示とは違うという図式を作らないと、また妖怪かとなるので上手くやってほしい。

会長	審議ありがとうございました。
----	----------------